



長押金具・障子金具 繊細で優美な鋳意匠



長押金具・障子金具 魚々子の細かさは驚異的だ

工芸としての鋳金具の美意識・意匠・技

加茂定 (京都)



障子門金具



柱金具

加茂定(京都)は様々な鋳の逸品を所蔵するが、今回は仏壇鋳の実際の構成を拝見させて頂いた。実は、この仏壇鋳については随分と以前に紹介したことがあるのだが、改めて拝見すると、その意匠と技術の高さに驚く。

鋳自体は地彫りを基本としているが、長押(上框)鋳の魚々子の細かさは現在ほとんど見ることが出来ない。意匠は鉄仙。上段鋳は透かし地彫り

左の中央香台は木地所蔵していたものを仕上げたもの。脚先端の若葉に意匠性の高さを感じる。

障子鋳は菊透かし。左右非対称の図柄であることが、写真からお分かり頂けると思う。菊文様は柱類にも使われている。下段と引出の鋳は菊の地彫り。何よりも木瓜部分の曲線が魅力的だ。

鋳もそうだが、箔や塗りの仕上がりは全く衰えていない。



上段金具 桜と紅葉の文様



上段金具



障子金具



下段金具 木瓜に沿った美しい曲線を作る



下段金具 デザインは左右非対称



裏門



内陣の構成